



[公益財団法人 アイヌ文化振興・研究推進機構とは…]

平成9年5月、アイヌ文化の振興等を行い、アイヌの人たちの民族としての誇りが尊重される社会の実現と、我が国の文化の多様な発展を図ることを目的とする「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」が制定され、同年7月から施行されました。

当公益財団は、平成9年7月、北海道札幌市内に事務所を、同年9月には東京都内にアイヌ文化交流センターを開設し、この法律に基づき、アイヌ文化の振興、アイヌの伝統やアイヌ文化に関する知識の普及・啓発などの事業を実施しています。

● 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目 プレスト1・7 (5階)
The Foundation for Research and Promotion of Ainu Culture (FRPAC)
Presto 1.7 (5F), Kita 1, Nishi 7, Chuo-ku, Sapporo 060-0001 Japan
TEL.011-271-4171 FAX.011-271-4181
ホームページ <http://www.frpac.or.jp/>
e-mail:ainu@frpac.or.jp

● アイヌ文化交流センター

〒104-0028 東京都中央区八重洲2丁目4号13番
ユニゾ八重洲2丁目ビル(3階) (旧アーバンスクエア八重洲)
Ainu Culture Center, Tokyo
UNIZO Yaesu 2-chome Building (Formerly Urban square Yaesu) (3F), 4-13, Yaesu 2-chome,
Chuo-ku, Tokyo 104-0028 Japan
TEL.03-3245-9831 FAX.03-3510-2155
e-mail:acc-tokyo@frpac.or.jp



平成27年度

1月→3月 (vol.4)

アイヌ語 ラジオ講座

石狩方言



STVラジオ

本放送 毎週日曜日 7:00 ~ 7:15 再放送 毎週土曜日 23:00 ~ 23:15

STVラジオのホームページでこれまでの放送を聴くことができます。
<http://www.stv.ne.jp/radio/ainugo/>

講師 中井 貴規

公益財団法人 アイヌ文化振興・研究推進機構

vol.4

はじめに

アイヌ語はアイヌの人たちの独自の言語で、身近に触れているものとして地名があります。アイヌ語の地名は北海道をはじめ、サハリンや千島列島、それに東北地方にも残されています。地名の他にも「エトピリカ」や「ラッコ」、「トナカイ」などアイヌ語と意識されずに使われている言葉があります。

また、アイヌの人たちはユカラをはじめとする多くの優れた口承文芸を伝えてきました。語り継がれてきた物語の中には、自然の中で生きていく知恵や自然との折り合いの付け方などが盛り込まれていることも多く、話を聞くことで、さまざまなことを学べるようになっていきます。

現在では、アイヌ語が日常会話の言葉として使われることはほとんどありませんが、祖先から伝えられた言葉を多くの人たちが話せるようになるよう、いろいろな活動が行われています。

この「アイヌ語ラジオ講座」は、初心者向けのやさしいアイヌ語講座をラジオで放送し、多くの人たちにアイヌ語に触れ、学習する機会を提供するため平成10年から開設しているものです。

平成27年度は4月からの1年間、旭川市出身の中井貴規さんをお迎えし、アイヌ語講座を開講してまいります。

どうぞ、アイヌ語に触れてみて下さい。

平成27年4月

「アイヌ語ラジオ講座」テキスト Vol.4 目次
テキストは3か月ごとに発行しています。

●講師等の紹介	2P
●講座のスケジュール	3P
●テキスト40～52	4～29P
●収録テープ等の貸出について	30P
●アンケート	31～32P
●会員募集のお知らせ	33P

アイヌ語 ラジオ講座

石狩方言



講師 中井 貴規

公益財団法人 アイヌ文化振興・研究推進機構

vol.4

講師のプロフィール



なかい たかのり
中井 貴規

旭川市に生まれる。現在は白老町在住。アイヌ語指導者育成事業第8期修了生。
2011年から2014年まで、北海道大学アイヌ・先住民研究センターにて技術補佐員として勤務。
現在は、伝承者育成事業第3期生として、白老町にあるアイヌ民族博物館での研修を中心に、アイヌ文化について学んでいる。

支援研究者の紹介

おおた みつる
太田 満

北海道赤平市生まれ。旭川アイヌ語教室等でアイヌ語教育に努める。現在、(公財)アイヌ文化振興・研究推進機構が実施している指導者育成事業、語り部育成事業(旭川・浦河)の講師として、アイヌ語の指導に当たっている。

【このテキストのアイヌ語と表記の仕方について】

現在のところアイヌ語には共通語というものではなく、それぞれの地域でそれぞれの方言が学ばれています。そのため、このテキストでは担当講師の方言(石狩方言)をベースにしています。

アイヌ語ラジオ講座のスケジュール表

月	日	Kampinuye	テーマ	ページ
1月	3日	40	～される — 受け身の表現	4
	10日	41	誰が誰に — 人称接辞の主格目的格変化	6
	17日	42	口承文芸 — tuytak (1)	8
	24日	43	口承文芸 — tuytak (2)	10
	31日	44	口承文芸 — tuytak (3)	12
2月	7日	45	口承文芸 — tuytak (4)	14
	14日	46	口承文芸 — tuytak (5)	16
	21日	47	口承文芸 — yukar (1)	18
	28日	48	口承文芸 — yukar (2)	20
3月	6日	49	伝承者(担い手)育成事業の紹介、marek	22
	13日	50	自己紹介	24
	20日	51	疑問詞のまとめ	26
	27日	52	動詞の簡単な造語法	28



～される — 受け身の表現



例文

1. Ne wen matnekaci kamuy orwa an=panakte.
ネウエンマツネカチ カムイオロワアンパナクテ。
 その悪い女の子が神から罰せられている。
2. A : Aw ta an ekatci orwa enci=kikkik wa. Ku=sapaha arka. Nintaku an.
アウタアンエカッチオロワ エンチキクキクワ。
クサパハア=カー。ニントクアン。
 隣に住んでいる子に、僕、殴られたよー。頭が痛いー。たんこぶできたー。
 B : Nen ta e=kikkik ya? Rehe ye ya!
ネンタエキクキクヤ? レヘイエヤー!
 一体誰が、お前を殴ったんだ? 名前を言いなさい!
 A : Tana tana kunike tokikapo sokapo tarke asarsar
タナタナ クニケ トーキカポ ソカポ タラケ アーサラサラ
 yuktumakiwka ampatopakiwka nahute natarampa cococo.
ユクトマキウカ アンパトパキウカ ナーフテ ナータランパ チョーチョヨ
 ※オイナカムイの愛犬たちの名前。→今日の学習を見よ。
 B : Nekon ta?
ネーコンダ?
 何だって?
 A : Tana tana kunike tokikapo sokapo tarke asarsar
タナタナ クニケ トーキカポ ソカポ タラケ アーサラサラ
 yuktumakiwka ampatopakiwka nahute natarampa cococo.
ユクトマキウカ アンパトパキウカ ナーフテ ナータランパ チョーチョヨ!
 B : Ayayapo! Sonno tanne rehe hawe!
アヤヤポ! ソンノタンネレヘアウェ!
 うわわっ! ずいぶん長い名前なこと!
 E=sapa en=nukare ani. …Nintaku? Ene an pe isam ru an!
エサパエンヌカレアニー。…ニントク? エネアンペイサムルアン!
 私に頭を見せてごらん。…たんこぶ? そんなもの無いじゃない!
 A : Nea ekatci rehe ku=ye ayne nintaku isam ruwe ne!
ネアエカッチレヘクイエアイネ ニントクイサムルウェネ!
 その子の名前を言って、たんこぶ無くなった!
3. Wen irenka patek es=kar kusu nani unci=rayke nankor na
ウエンイレンカパテクエシカルクス ナニウンチライケナンコンナ。
 悪い取り決めばかりをお前たちが作るから、
 私たちはすぐに殺されてしまうだろうよ。



単語

アイヌ語		品詞	日本語
irénka	イレンカ	名詞	気持ち、思想、法律
kíkkik	キクキク	他動詞	何度も～を叩く
níntak	ニントク	名詞	たんこぶ ※所属形は níntaku ニントク
nukáre	ヌカレ	他動詞	(人) に～を見せる
panákte	パナクテ	他動詞	～を罰する



今日の学習

1. 受け身の表現について

kampinuye27などで「話し相手を含む私たちが」という人称接辞 =an, an= について学びました。それとは別に、kampinuye38では「特定しないある人が」という =an, an= も学びました。例文1を詳しく見てみましょう。

matnekaci kamuy orwa an=panakte. 女の子が神から罰せられている。

他動詞 panakte「～を罰する」の目的語はmatnekaci「女の子」で、主語は an=「特定しないある人」です。和訳するときには、「女の子が罰せられる」というように、「～が～される」と訳されるため、受け身の表現とも呼ばれます。「ある人」が誰かを示したい場合には、orwa を使います。この例文では、kamuy がそれに当たります。

2. enci=、unci=

受け身の表現ですが、石狩方言では、enci=「私が～される」、unci=「話し相手を含まない私たちが～される」という形があります。例文中の、「enci=kikkik」「unci=rayke」がそれに当たります。ちなみに、「ku=kor unarpe orwa ikor enci=kore. 私のおばさんが私にお金をくれた。」というように、必ずしも「～される」という表現だけに受け身の形が使われるわけではない、ということも覚えておきましょう。

人称接辞を組み合わせ、受け身の表現を作ることができます。こちらについては、別の課で紹介します。

3. 言葉遊び

例文2で出てきた名前ですが、もちろん、実際に人間につけた名前ではありません。これは人間に文化をもたらしたオイナカムイが愛犬たちの名を呼んだものとされています。こちらは杉村フサ嬢が伝承しているものです。犬たちの数は十匹とも言われておりますが、いろいろな説があります。なお、最後の cococo は犬を呼ぶときの声です。早口言葉として遊んでも面白いですし、発音の練習にもなります。ぜひ繰り返し言ってみてください。

メモ

 例文

- A : Tampe es=en=kore ruwe?
タンベエシエンコレルウェ?
 あなた、これを私にくれるの?

B : Ru un.E=koyayrayke=an kusu tampe e=kore=an na.
ルウン。エコヤイライケアックス タンベエコレアンナ。
 はい。私はお前に感謝するから、これをあげるんだよ。
- A : Eciki en=kopan wa en=kore yan! Esokay patek es=osikkote=an na.
エチキエンコバナワエンコレヤン! エソカイパテックエソシッコテアンナ。
 私のことを嫌わないでくれ! 私はあなただけを愛しているんだよ。
 Ku=ipe poka eaykap.Ku=mokor poka eaykap.
クイペポカエアイカフ。クモコロポカエアイカフ。
 食べることもできない。眠ることもできない。

B : Paw! Teeta ek pe e=ne ruwe ne. Tewano ecikki en=kohanke!
パウ! テエタエッペエネルウェネ。テワノエチッキエンコハンケ!
 もう! あんた以前も来たよね。今後、絶対私に近寄らないで!
 Kanna suy e=en=kohanke kor emuskorkur ekota ku=oman kusu ne na.
カンナスイエエンコハンケコロ エムシコロクエコタクオマンクスネナ。
 またもう一度、あんたが私に近づくと、私は、警察に行くつもりだよ。

 単語

アイヌ語		品詞	日本語
emúskorkur	エムシコロクル	名詞	警官
káanna	カンナ	副詞	また、再び
koyárayke	コヤイライケ	他動詞	～に感謝する
osíkkote	オシッコテ	他動詞	～を愛する
poka	ポカ	副助詞	～さえも
téwano	テワノ	副詞	今から



今日の学習

「私がお前を」「お前が私を」などの表現

「私がお前を」「お前が私を」などの表現は、主格と目的格の人称接辞を組み合わせで表現します。これを主格目的格変化と呼びます。以下の表は石狩方言の人称の組み合わせです。縦の列は主格（～は、が）の人称、横の行は目的格（～に、を）の人称を表します。表の中の「他」は他動詞を表します。表中の空欄になっている部分はそのような組み合わせがないことを表します。

下の表を見るとお分かりのように、人称の組み合わせはとても複雑です。しかし、例文にもある「e=en=kohanke お前が私に近づく」といった「お前が私に」のように、二人称が主格で、一人称が目的格のものについては、「e=en=他」と意味通りに並べるだけなので理解しやすいのではないのでしょうか。

ところが、「e=koyayrayke=an 私がお前に感謝する」といった「私がお前を」のような、一人称が主格で、二人称が目的格のものなどには注意が必要です。「お前に」にあたる e= を他動詞の語頭につけて、「私が」にあたる部分は =an を他動詞の語尾につけます。石狩方言では、このように人称接辞を他動詞の前後に振り分ける言い方もあるので、注意が必要です。

目的格 主格	私を	私達を (除外形)	私達を (包括形)	お前を	お前達を あなたを	彼を (彼等をetc.)	不特定の 誰かを
私				e=他=an	es=他=an	ku=他	
私達 (除外形)				e=他=an e=他=as ※注1	es=他=an es=他=as ※注1	ci=他	
私達 (包括形)						an=他	
お前	e=en=他	e=un=他				e=他	
お前達 あなた	es=en=他	es=un=他				es=他	
彼 (彼等をetc.)	en=他	un=他	i=他	e=他	es=他	φ=他 ※注2	i=他
不特定の 誰か	en=他=an enci=他	un=他=an unci=他	i=他=an	e=他=an an=e=他	es=他=an	an=他	i=他=an

※注1：空知方言ではe=他=an、es=他=anですが、旭川方言では砂沢クラ姫の言い方としてe=他=asと、es=他=asがあります。

※注2：φ= は人称接辞ゼロの記号で、人称接辞が用いられていないことを表します。

メモ

tuytak 砂沢クラ塙伝承「ひとり歩きの仔グマ」(1)

an=ante hoku tura oka=an ike

アナンテホクト°ラオカアニケ

私の夫と暮らしていたところ、

sine an to ta sine pon eper an=ante hoku sanke wa an=reska wa oka=an ike

シネアントタ シネポネペレアナンテホクサンケワ アンレシカワ オカアニケ

ある日一匹の仔グマを私の夫が持ってきて、私が育てていたところ、

sine an to wano sonno episun inkar kor oroperere

シネアントワノ ソンノエписニンカラコロオロペレレ

ある日から、本当に浜の方を見つめながら異様な唸り声を出し、

ekimun inkar kor oroperere kunne tokam oroperere wa

エキムニンカラコロオロペレレ クンネットカムオロペレレワ

山の方を見つめながら異様な唸り声を出し、夜も昼も異様な唸り声を出して、

sonno mokor=an ka eaykap kusu

ソンノモコロアンカエアイカックス

私は本当に眠ることもできないので・・・



単語

アイヌ語	品詞	日本語
ánte	アンテ	他動詞
ekimun	エキムン	副詞
episun	エписン	副詞
ike (hike)	イケ (ヒケ)	接続助詞
óroperere	オロペレレ	自動詞
óyna	オイナ	1. 自動詞 2. 名詞
réska	レシカ	他動詞
sánke	サンケ	他動詞
tókam	トカム	名詞、副詞

アイヌ語	品詞	日本語
turá	ト°ラ	後置副詞
túytak	ト°イタク	1. 自動詞 2. 名詞
wano	ワノ	後置詞
yúkar	ユカラ	1. 自動詞 2. 名詞



今日の学習

1. tuytak、oyna、yukar

口承文芸は、語り手が文字に書かれたものを読まずに自分の言葉で語り、周りはそれを聞くという形で、演じられ楽しめます。その中でも、tuytak は「散文説話」などと訳され、謡われずに散文の形で語られる物語です。他地方では、uwepeker、isoitakki などと呼ばれ、主人公は人間やら神やら様々で、内容も多種多様です。

他にも、oyna と呼ばれる物語や、yukar と呼ばれる物語があります。oynaは神の側に視点を置いて語られることが多く、他地方の kamuyyukar の訳から「神謡」と呼ばれます。これは、1～数行ごとに一定の折節 (sakehe) を入れながら謡われますが、実はこの形式を持つものがoynaであって、主人公は神だけではなく人間の場合もあるのです。神謡と言え、知里幸恵さんの『アイヌ神謡集』が有名でしょう。特に「フクロウの神の自ら謡った謡」は、その物語の中の「銀の滴降る降るまわりに」という言葉とともに色々な形で取り上げられています。なお、胆振や日高では、oyna は人文神を主人公とする「聖伝」と訳される違うジャンルの物語を指します。

yukar は、「英雄詩曲」などと訳される、ポイヤウンペの名で呼ばれる少年英雄の活躍が語られる物語です。yukar については後の課で扱います。

2. 口承文芸の人称について

「an=ante hoku tura oka=an ike… 私の夫と暮らしていたところ…」という出だしで始まっています。「an=ante hoku 私の夫」「oka=an私は暮らしていた」などのように、一人称の人称接辞として、=an、an= が用いられています。これはkampinuye27で、一人称複数包括形「話し相手を含む私たち」として学んだものです。実は、物語の中での一人称の人称接辞は、日常会話で用いる人稱接辞とは異なる用い方をされます。

- ・一人称複数に除外形と包括形の区別がありません。例えば、ci= も an= もともに、「私たちは、私たちの」という意味です。
- ・一人称の単数と複数が同じ形。例えば、oka=an は「私がいる」という場合と「私たちがいる」という場合とがあります。どちらの意味化は文脈で判断します。
- ・単数と複数とで形が異なる動詞の場合（特に自動詞）、主語が単数の「私」であっても、oka=an のように複数形を用います。

口承文芸の一人称に関して、oyna では、ci=、=as、=unのみが用いられる場合、an=、=an、i= のみが用いられる場合、両方混在する場合があります。oyna 以外のジャンルでは、ほとんどan=、=an、i= が用いられています。

メモ

tuytak 砂沢クラ壺伝承「ひとり歩きの仔グマ」(2)

sine an to ta an=kor kur ene itak hi
シネアントタ アンコロクエネイタキ
 ある日私の夫がこのように言った。

nekon an kusu ene an=reska eper hawean. nekon ka an=kar wa
ネコナクス エネアンレッカエベレハウェアン。ネコンカアンカラワ
 「どのようなわけで、このように私が育てている熊が鳴いているのか。
 どうか私がして、

nekon ne yakka kamuy ne kusu kamuy puri an wa an=omante
ネコンネヤッカ カムイネクス カムイプリアンマアノマンテ
 どのようなであっても、神であるので神にふさわしい扱い方があって、
 (それでもって) 私が送る」

sekor itak korka anokay kor raunkut an=ama wa
セコロイタッコロカ アノカイコロラウルクッアナマワ
 と言ったが、私が身に着けたラウルクツを私が外して

ne raunkut set okari an=sinasina oka=an ike
ネラウルクツセッコカリ アイシナシナオカアニケ
 そのラウルクツで檻の周りをぐるぐる縛っておいたところ、

sine ukuran cinita=an kusu kamuy netopa i=cinitare ene hawean hi.
シネウ克蘭 チニタアクス カムイネトパイチニタレエネハウェアニ。
 ある晩、私が夢を見たところ、偉い神が私に夢を見させてこのように言った。

 **単語**

アイヌ語	品詞	日本語
amá	アマ	他動詞 (身に着けていたもの) を脱ぐ、外す
ciníta	チニタ	1. 自動詞 2. 名詞
cinitare	チニタレ	他動詞 (神が何かを教えたり、知らせるために、人) に夢を見せる
hawéan	ハウェアン	自動詞 (～という) 声がある、(～という) 話である、(～という) 言う

アイヌ語	品詞	日本語
netópa	ネトバ	名詞 首領、リーダー
okári	オカリ	後置副詞 ～の周りに、
ománte	オマンテ	他動詞 ～を行かせる、～を送る
raúnkut	ラウルクツ	名詞 →今日の学習を見よ
sekor	セコロ	後置副詞 ～と
sét	セツ	名詞 寝台、クマの檻
sinásina	シナシナ	他動詞 ～を縛り上げる
ukúran	ウ克蘭	名詞、副詞 (就寝してから朝起きるまでの) 夜、昨夜



今日の学習

1. sekor 直接的な引用「～と」

本文で出てくる sekor は先行する文全体を受け、「～と」の意味で用いられる後置副詞です。誰かの発話や思考を直接的に引用し、sekor の後に itak「言う」や yaynu「思う」などの動詞を含む文が続きます。アイヌ語4行目の「sekor itak」は、「私の夫」の発話を直接引用しています。

2. raunkut について

raunkut とは、従来「下帯」とか「貞操帯」などと訳されていたものです。ツルウメモドキやイラクサなどの繊維を材料としています。その形は様々で、基本的に母から娘に伝えられ、raunkut の長さや形状で母親の系統を示すとされています。raunkut を素肌の腰に締めない女性は、夫婦の運を悪くするとして結婚できませんでした。魔よけの力があるとされており、この後、物語中ではraunkut の持つ霊力のことが述べられます。なお、昔は男の世界、女の世界がきっちりと分けられていたため、男がラウルクツについて語る事はいけないとされていたと言います。

3. cinita、cinitare について

本文中のcinita、cinitare は形こそ似ていますが、cinita は「夢を見る」という自動詞、cinitare は「～に夢を見せる」という他動詞です。-re は動詞の語尾にくっついて、「～させる」という意味の使役形を作ります。

cinita では -re が語尾についていますが、他にも -te、-e があり、そのどれになるかは、次のような規則で決まります。

- ・母音で終わる動詞 (①)、子音w、yで終わる動詞 (②) →-re
 - ①ipe (食事する) →ipe-re (食事する-させる) ⇒ipere 「～に食事させる」
 - ②kasuy (～を手伝う) →kasuy-re (～を手伝う-させる) ⇒kasuyre 「～に～を手伝わせる」
- ・r、wを除く子音で終わる動詞 (③)、子音yで終わる動詞の一部 (④) →-te
 - ③oman (行く) →oman-te (行く-させる) ⇒omante 「～を行かせる」
 - ④tuy (切れ落ちる) →tuy-te (切れ落ちる-させる) ⇒tuyte 「～を落とす」
- ・子音rで終わる動詞 (⑤)、他動詞kot (⑥) →-e
 - ⑤kor (～を持つ) →kor-e (～を持つ-させる) ⇒kore 「～に～を与える」
 - ⑥kot (～に結びつく) →kot-e (～に結びつく-させる) ⇒kote 「～に～を結びつける」

この他、自動詞にくっついて、使役の形の他動詞を作る -ka があります。石狩方言では多用されま。なお、-re、-te、-eの形と併存するものがあります。この2つに意味の違いはありません。

- tanne (長くなる) →tanne-ka (長くなる-させる) ⇒tanneka 「～を長くする」
- tanne (長くなる) →tanne-re (長くなる-させる) ⇒tannere 「～を長くする」

tuytak 砂沢クラ壘伝承「ひとり歩きの仔グマ」(3)

tan eper anakne eper somo ne. kamiasi ne wa es=kor es=reska kusu
タンエペレアナッネ エペレソモネ。カミアシネワエシコロエシレシカクス
 「この仔グマは仔グマではない。
 魔物であって、それを手に入れて、お前たちが育てていたので、

tane kamuy orwa an=panakte an na sekor i=cinitare.
タネカムイオロワアンパナッテアンナ セコロイチニタレ。
 今、神から罰せられている」という夢を私に見させた。

ne nisatke hopunpa=an inkar=an awa
ネニサツケ ホブンパアン インカラアナワ
 その翌朝、私が起き上がったところ、

nea set otta an eper ouse piciw pone nea raunkut ani an=sinasina ray kane an.
ネアセトッタアンエペレ オウセピチウポネ ネアラウンクツアニ アイシナシナライカネアン。
 その檻にいる仔グマはただの白骨に…、
 そのラウンクツでぐるぐる巻かれて死んでいる。

sonno osserke=an wa an=kor kur ene itak hi.
ソノオッセレケアンヌワ アンコロクエネイタキ。
 私は驚いて、私の夫はこのように言った。

nep kamiasi ne yakka kamuy ekota an=opunika yak pirka sekor itak korka
ネッカミアシネヤッカ カムイエコタ アノプニカヤッピリカ セコロイタッコロカ
 「何の魔物であっても、神のところへ送ったら良い」と言ったけれども、

ne kamuy kamiasi ne kusu an=etoytuye yak pirka sekor itak=an awa
ネカムイカミアシネクス アネトイト[°]イエヤッ ピリカセコロイタカナワ
 「その熊は魔物であるので埋めるのが良い」と私が言ったところ、

an=kor kur neno ne yakka eper kat kor pe ne kusu
アンコロク ネノネヤッカ エペレカッコロベネクス
 私の夫は「そうだったとしても、それでも仔グマの姿をしているものであるので・・・



単語

アイヌ語	品詞	日本語	
awa	アワ	接続助詞	～(する)と、～(した)ところ
etóytuye	エトイト [°] イエ	他動詞	～を埋める
kamiasi	カミアシ	名詞	魔物、怪物、化け物
néno	ネノ	後置副詞	～と同様に、～のように、
nisátke	ニサツケ	名詞、副詞	(～した)翌日、(～した)翌朝、
opúnika	オブニカ	他動詞	(頭骨を祀り、神の国へ動物の魂)を送り帰す
ósserke	オッセレケ	自動詞	驚く
oúse	オウセ	副詞	ただ、ただ～だけ
píciwpone	ピチウポネ	名詞	白骨
ráy	ライ	自動詞	死ぬ



今日の学習

1. ene + 動詞 (句) + hi

ene は「このように、そのように、あのよう」にという副詞です。さて、今回紹介している tuytak では、「ene itak hi」と「ene + 動詞+ hi」の形で出てきています。「ene + 動詞+ hi」は、特に「～する(した)こと・様子・方法」といった意味を表します。そして、その後に具体的な説明が続きます。今回出てきた「ene itak hi」は「(私の夫が)言ったことは…」という意味になります。その後、「言ったこと」の具体的な内容が述べられます。「このように言った。」といったん区切ってから具体的な内容を述べる、という訳し方もあります。

2. 後置副詞 neno、副詞 ene

nenno は何かとの類似を示して用いられます。例えば、「渋谷さん neno 渋谷さんのように」といった具合です。後置副詞とともに用いられるのは、目的格の人称接辞であることをkampinuye27で学びました。しかし、「私」や「あなた」のような一人称や二人称に関して、nenno と一緒に用いられるのは人称代名詞です。「私のように」と表現したい場合は、「kuani neno」となります。

副詞 ene は「そのように」とも訳されるため、日本語で考えると、後置副詞 neno と混同してしまいがちです。しかし、nenno は後置副詞ですから名詞や代名詞を目的語とするのに対して、ene は副詞ですから目的語をとりません。

「そのように」の意味で nenno を用いる場合、「その」に該当する情報を話し手と聞き手が了解していることが前提です。一方 ene は話し手が了解していれば聞き手の了解は問いません。前述の「ene itak hi」がまさにその例です。話し手はイメージを持っているので、「このように言った」と言います。しかし、聞き手からすると、必ずしもその言った内容が分かっているわけではありません。そこで、話し手が「ene itak hi」の後に、具体的な内容を述べることで、聞き手も理解できます。これから話すことについて前ふりとして「このように、そのように、あのよう」にという意味で ene が用いられ、その後に、「この、その、あの」の具体的な内容が語られていくのです。

3. rayの言い方のいろいろ

どこの言葉でもよくあることですが、直接的に口にすることが憚られる事柄には、別の言い回しがあります。アイヌ語でも、「死ぬ」ことを直接的に ray と言わない表現があります。

isam (無い、無くなる) ⇒亡くなる

mosirhoppa (mosir: 国, hoppa: ~置いて行く、~を残して行く) ⇒逝去される

kotanhoppa (kotan: 村, hoppa: ~置いて行く、~を残して行く) ⇒逝去される

mawtuy (maw: 息, tuy: 切れる) ⇒息をひきとる

などがそれにあたります。

tuytak 砂沢クラ壺伝承「ひとり歩きの仔グマ」(4)

inaw an=kar wa an=opunika kusu ne sekor itak korka
イナウアンカヲ アノプニカクスネ セコロイタッコロカ
 イナウを作って、送ることをするつもりだ」と言ったのだが、

an=kopan wa ne ukuran cinita=an kusu ene oka hi.
アンコパンマ ネウクラン チニタアックス エネオカイ。
 私は拒んで、その晩私はこんな夢を見た。

kamiasi ne korka aynu otta an wa aynu kam e rusuy kusu iki yakka
カミアシネコロカ アイヌオッタアンヌワ アイヌカムエルスイクス イキヤッカ
 「魔物だけれども人間のところにおいて、人間の肉を食べようとしても、

wen kusu eper ne yaykar wa sinenne apkas kor an hi ta
ウェンクス エペレネヤイカヲ シネンネアプカシコロアニタ
 うまくいかないの、仔グマに変身して、ひとりで歩いているときに、

ne pani un nispa ne eper reska. tane poro wa aynu kam e rusuy yakka
ネパニウンニシパネエペレシカ。タネポロワ アイヌカムエルスイヤッカ
 その川下にいる旦那がその仔グマを育てた。今大きくなって、人間の肉を食べたくても、

set otta an=kor pe an=reska p ne kusu asin eaykap kusu
セトッタアンコロペ アンレシカフネクス アシンエアイカックス
 檻の中で飼われているから、出ることができないので、

nenno aynu kam e rusuy kor oroperere...oroperere ayne ene oroperere
ネノ アイヌカムエルスイコロ オロペレレ オロペレレアイネ エネオロペレレ
 そのように人間の肉を食べたがりながら異様なうなり声を出し…
 さんざんこのように異様なうなり声を出したあげく、

ekimun inkar oroperere episun inkar oroperere
エキムニンカヲ オロペレレ エピスニンカヲ オロペレレ
 山の方を見つめ異様なうなり声を出し、浜の方を見つめ異様なうなり声を出し、

raunkut ani an=sinasina an=panakte.
ラウンクツ アニ アイシナシナアンパナクテ。
 ラウンクツで縛りつけられ、罰せられた。



単語

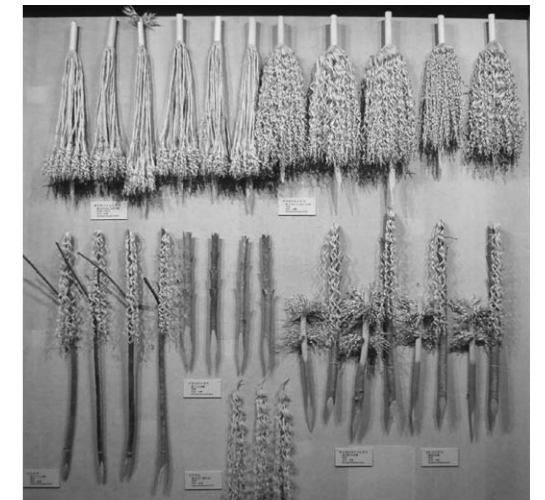
アイヌ語		品詞	日本語
asin	アシン	自動詞	出る、外出する ※複数形は、asip アシッ
inaw	イナウ	名詞	→今日の学習を見よ
kimunkamuy	キムンカムイ	名詞	山の神、クマ (ヒグマ)
kotankorkamuy	コタンコロカムイ	名詞	村の守り神、シマフクロウ
páni	パニ	場所名詞	川下 ※ péniペニ は、「川上」 石狩川流域では、神居古潭が川上と川下の境目。
yáýkar	ヤイカラ	自動詞	(名詞 + ne + yaykar の形で) ～に変身する、～に化ける



今日の学習

1. inaw について

inaw とは、アイヌの祭礼において用いられる祭具です。木の表面を刃物で掻き削って、薄くて軽い房状の飾りをたくさん作ったものです。「木幣」などと和訳されることがあります。神への贈り物、伝達と運搬、人間の暮らしを守ること、などの役割を果たすと考えられています。捧げる神や用途に応じて、ミズキ、ヤナギ、ハンノキ、キハダなど様々な木で作られ、またその形状も様々です。



アイヌ民族博物館の展示

2. 送り儀礼

アイヌの宗教儀礼の中で知られているものの一つに、クマの霊送りの儀礼があると思います。アイヌ語では、iomante (i: それ・神、omante: ~を送る) と言います。肉を背負って毛皮を着て人間界に遊びに来たクマの神の魂を、本来の神の国に送り帰す儀礼です。

クマの神は良い心の人を選んでその客人となります。クマを迎えた(つまり、クマを獲った)人間は肉や毛皮を得ることができます。

そのお礼に人間は祈りやイナウや供物を捧げ、踊りや語りを披露して、クマの神の魂をもてなします。クマの神の魂は、イナウや供物を得て神の国に帰ると、今度は他の神々を招いて自分が得た供物をふるまい、神としての位を上げていくのです。人間と神はこうした互恵的な関係を築いているというのが、アイヌの世界観です。

残念なことに私は参加した経験も見た経験もないのですが、石狩川筋ではkimunkamuy (クマ) と kotankorkamuy (シマフクロウ) が特に尊い神とされて、とても丁寧に送られたそうです。



inawを削っているところ

tuytak 砂沢クラ壺伝承「ひとり歩きの仔グマ」(5)

kamuy kat kor yakka kamiasi ne kusu somo inaw an=kore yakka pirka
カムイカッコロヤッカ カミアシネクス ソモイナウアンコレヤッカ ピリカ
 熊の姿をしても魔物であるのでイナウを与えなくてもよい

sekor kamuy i=cinitare kusu an=kor kur otta a=ye awa an=kor kur sonno osserke.
セコロカムイイチニタレクス アンコロクソットアイエアワ アンコロクソノオッセレケ。
 と神が私に夢を見させたので、私の夫に言ったところ、私の夫は本当に驚いた。

ne kamuy ene hawki hi.
ネカムイエネハウキヒ。
 その神がこのように言った。

tane wano es=kimun yakka kim ta apkas sine pon eper ne yakka nep ne yakka
タネワノエシキムンヤッカ キムタアツカシシネポネペレネヤッカ ネブネヤッカ
 「これからお前たちが山に入っても、山でひとり歩きする仔グマであっても、何であっても、

sinenne apkas kor an pe anakne eciki an=reska p ne na sekor i=cinitare.
シネンネアツカシコロアンペアナツネ エチキアンレシカフネナ セコロイチニタレ。
 ひとりで歩きながらいるものは決して育てるものではないぞ」と私に夢を見させた。

orowano an=kor kur kimun yakka sinenne apkas kor an eper anakne
オロワノアンコロクキムンヤッカ シネンネアツカシコロアンエペレアナツネ
 それから、私の夫は山に入っても、ひとりで歩きながらいる仔グマは

somo sanke p ne kusu tane wano okay utar anakne
ソモサンケツネクス タネワノオカイウタラアナツネ
 連れてこなかったものである、これからの人々は、

kimun yakka sinenne nep ka unu ka tura ka somo ki
キムンヤッカ シネンネネツカウヌカト°ラカソモキ
 山に入ってもひとりで何か母熊とも一緒にいない

sinenne apkas kor an eper eciki reska ya sekor pani un nispa katkemat yayetuytak.
シネンネアツカシコロアンエペレ エチキレシカヤ
セコロパニウンニシパカツケマツヤエト°イタク。
 ひとりで歩いている仔グマは決して育てるでないぞ、と川下の旦那の妻が物語った。



アイヌ語	品詞	日本語
háwki	ハウキ	自動詞 言う
ikáneypeka ikanéypeka	イカネイベカ イカネイベカ	副詞 ikaneypeka + 肯定文+ na の形で、決して～(し)てはならない
irúska	イルシカ	自動詞 腹を立てる、怒る
kimún	キムン	自動詞 (狩をするために) 山に行く、山に入る
orówano	オロワノ	後置副詞 それから、そして、その次に
yayétuytak	ヤイエト°イタク	自動詞 (物語の結びに用いられ) 物語る
yáyeysoytak	ヤイエイソイタク	自動詞 (物語の結びに用いられ) 自らを物語る
yayéyukar	ヤイエユカラ	自動詞 (物語の結びに用いられ) 自らについて物語る



今日の学習

1. eciki an=reska p ne na, ikaneypeka

kampinuye33において、副詞 eciki を用いて、「eciki+命令文」で「～するな」、「～しないで下さい」という禁止の表現を学びました。また単独で「Eciki!」「だめ!」といった使い方ができることも学びました。

さて、今回の本文中、「eciki an=reska p ne na」「eciki reska ya」と同じeciki を使っているのに2種類の表現があります。実は、eciki は、先に学んだ「eciki+命令文」という使い方の他に、「eciki an=reska p ne na. 決して育てるものではないぞ。」のように「～するものではない」という使い方をすることもあります。この場合は、eciki の後に必要な人称接辞を伴う肯定文が続くので注意が必要です。eciki をより強めた言い方の ecikkiでも同様の使い方ができます。

また肯定文を導く禁止の表現として、ikaneypekaという副詞もあります。物語や祈り言葉などの中で用いられ、「ikaneypeka es=iruska na. 決してお怒りにならないでください。」のように、「ikaneypeka+肯定文+ na」の形で用いられます。

2. nep ne yakka

nep は「何」という意味の疑問詞でした。本文中の「nep ka 何か」のように、「疑問詞+副助詞のka」で、特定できない事柄を表すことができます。これに対し、本文中の「nep ne yakka 何であっても」のように、任意の事柄は、「疑問詞+ ne yakka」で表します。なお、ne yakka は早口で音が縮まると、「ナッカ」と発音されることもあります。

3. 物語の結び tane wano okay utar anakne…

「tane wano okay utar anakne…」は、「これからいる人たちは…」といった意味になります。物語の内容によっては、「tane wano okay kamuy…」となる場合もありますし、単に、「tane wano…」の場合もあります。これらは、物語の最後に語り手が教訓のようなものを述べる表現です。今回の tuytakでは、最後に「～sekor (pani un nispa katkemat) yayetuytak」「～と(語り手)が物語った」という表現で、物語が結ばれています。「yayetuytak」の他に、「yayeysoytak」や「yayeyukar」、「itak」なども用いられます。

yukar 砂沢クラ媼伝承「ルロアイカムイとポイヤウンペの戦い」(1)

i=sitomare

イシトマレ

人を恐れさせる

ruroykamuy

ルロアイカムイ

ルロアイカムイ

tumunci kamuy

トムンチカムイ

戦の神

neyta an pe

ネイタンペ

いずこにいるもの

ne nankor

ネナンコロ

であろうか

attukari

アットカリ

その目前から

cisekohosipi=an yakun

チセコホシビアンヤクン

私が帰ったならば

imosir ka ta sieminayar=an kuni

イモシリカタシエミナヤラアンクニ

国中の笑いものにさせられると

yaynu=an kusu

ヤイヌアックス

私は思ったので

taporowano

タポロワノ

かくして

homar

ホマラ

霞んでいる

kamuy maw sirka

カムイマウシリカ

神の風に

an=mawnoyere

アンマウノイエレ

私は乗って

enon ta sino

エノンタシノ

何処へか

tu metot oika

トメトトイカ

2つの山を越え

re metot oika

レメトトイカ

3つの山を越えて

an=ehopuni

アネホプニ

私は飛び、

iki=an awa

イキアナワ

そうしていたところ、

i=teksam peka

イテッサムペカ

私のそばに

tu aynukurmam

トアインクurmam

2つの人影

re aynukurmam

レアインクurmam

3つの人影

cisipusure

チシプスレ

が浮かび上がった。

kourarcimi

コウラチミ

霧を払って

inkar=an awa

インカラナワ

私が見てみたところ



単語

アイヌ語	品詞	日本語
áttukari	アットカリ	位置名詞 へのすぐ手前
áynukurmam	アインクurmam	名詞 人影
cisékohosipi	チセコホシビ	自動詞 家に帰る
cisipusure	チシプスレ	他動詞 (中相) (何者かが) ~を浮かび上がらせる ※本文中では「~が浮かび上がる」と意識
enón	エノン	副詞 何処か ※ enon ta sinoで「何処へか」という一つの常套句
homár	ホマラ	自動詞 ぼんやりしている、霞んでいる、薄い
irúpaye	イルパイエ	自動詞 節をつけずに語る
koúrarcimi	コウラチミ	他動詞 ~に霧を払う
máw	マウ	名詞 風
máwnoyere	マウノイエレ	他動詞 ~に風をよじらせる
metót	メトツ	名詞 山奥、深山 ※普段あまり足を踏み入れないが、猫などの際、行くこともある範囲
siéminayar	シエミナヤラ	自動詞 笑いものになる
oika	オイカ	後置副詞 ~を越えて
póyyaumpe	ポイヤウンペ	固有名詞 ポイヤウンペ ※ yukar 中に登場する少年英雄で主人公
ruróaykamuy	ルロアイカムイ	固有名詞 ルロアイカムイ ※ yukar 中に登場する魔神
sírka	シリカ	場所名詞 表面、地表
sitóma	シトマ	他動詞 ~を恐れる
tapórowano	タポロワノ	接続助詞 かくして
tumúnci	トムンチ	名詞 戦い、戦争 ※ここでは、tumunci kamuy で戦の神。



今日の学習

1. yukar について

yukar は、「英雄詩曲」などと和訳される、節にのせて語られる物語です。poyyaumpe などの名で呼ばれる少年「英雄」の活躍が述べられた物語です。石狩川筋では、yukar は長らく男性が行うものとされ、女性の場合は節をつけない irupaye という方法でのみ語られました。しかし、男性たちが行わなくなる中で、川村ムイサシマツ媼をはじめ、雨竜出身の杉村キナラブック媼、幌別出身の金成イメカヌ(金成マツ)媼、沙流出身の平賀サタモ媼たち、女性が旭川における口承文芸の黄金期とも言える時代を作ったと言われていています。前回紹介した tuytak、今回紹介する yukar を伝承した砂沢クラ媼は、ムイサシマツ媼の娘です。

2. 少年英雄 poyyaumpe

yukar の主人公 poyyaumpe ですが、poyyaumpe は、「pon:小さい・若い、ya:陸、un:~に住む、pe:者 →若い陸に住む者」という意味で、本名ではなくあだ名です。poyyaumpe は tomisampet sinutapka に住んでおり、両親はおらず、幼い時から姉などに育てられるというのがよく見られる描写です。tomisampet sinutapka の場所は様々です。川村ムイサシマツ媼によれば現在の石狩市浜益にある pinnenitayoruspe 「黄金山」が城山であると言いますが、浜益のアイヌは男山である「黄金山」ではなく、女山である matnenitayoruspe 「播鉢山」の方だと考えていました。現在浜益に住む古老も「播鉢山」の神社がある辺りが居館のあった地と伝えています。その他にも候補地は浜益から留萌にかけての沿岸部に何か所かあります。皆さんも yukar に触れ、伝説の地を旅行してみたいかたがでしょう。近年、先の播鉢山ではアイヌの儀礼が復活し、毎年各地から有志が集まり、祭礼と yukar の披露が行われています。私も毎年参加しています。

3. 雅語、常套句

yukar や oyna などでは、その語りの中で、日常の会話表現よりも趣のある優雅な言葉づかいが用いられることがあります。こうした表現は雅語などと呼ばれます。本文中の「cisekohosipi」「cisipusure」「kourarcimi」「mawnoyere」がそれにあたります。

「tu metot oika、re metot oika 2つの山を越え 3つの山を越えて」や「tu aynukurmam re aynukurmam 2つの人影 3つの人影」のような「tu~ re~ 2つの~3つの~」という形もよく出てきます。こうした「2」や「3」といった数字を示した句を一緒に置いて、「~」にあたる部分が、複数あることや連続的であることを示します。必ずしも実際の数を指しているわけではないので注意が必要です。

また、「homar kamuy maw sirka an=mawnoyere」という表現が出てきますが、これをそのまま和訳すると、「霞んでいる神の風の表面に私は風をよじらせる」といった具合でうまく訳することができません。実は、この表現は、神通力で自分をそよ風のようにして自由に空を飛んだりすることを指す常套句です。

yukar などの口承文芸は、物語のあらすじに沿った語りをしながら、その時々に応じて雅語や常套句を駆使して語る…というように、語り手に多くの技術が要求されます。とはいえ、いきなりその要求を完璧にこなせる方はおそらくいないでしょう。もちろん、私もできません。まずは、気に入った物語の内容や節、入手のしやすさといった気軽なところから物語を選んで、言葉や節を覚えて真似て語ってみて、語彙や表現が増えたら、やがてどんどん自分なりの語り方にするという方法が良いのではないのでしょうか。

口承文芸 — yukar (2)

yukar 砂沢クラ媼伝承「ルロアイカムイとポイヤウンペの戦い」(2)

okkayo ne yakun
オッカヨネヤクン
男性である

kotom korkayki
コトムコロカイキ
らしいけれども

menoko so ne
メノコソネ
女性であり

an=kourarcimi
アンコウラチミ
私が霧を払って

inkar=an awa
インカラナワ
見てみると

tampa ne
タンパネ
今年になって

sinot numaci
シノツヌマチ
胸元を締める紐を

sirikoraye
シリコライエ
本当に高くずり上げた

pon menoko
ボンメノコ
若い娘は

nupur pe so ne
ヌプルペソネ
霊力が強い者

tusuno so ne
トスノソネ
巫術の力の強い者であって

kimuykasi ta
キムイカシタ
頭上に

kamuy ne so ne
カムイネソネ
神々しい状態である。

i=nukar ki kor
イヌカラキコロ
私を見ると

nep kasma
ネッカシマ
何よりも

eoripak pe
エオリパッベ
恐れ敬う者

an nankor
アンナンコロ
がいるのだろう

i=attukari
イアットカリ
私のすぐ手前に

sikeranaatte
シケラナアツテ
(彼女は) 眼を伏せ

itak rusuy pe
イタクルスイペ
話したい者

ne kotom
ネコトム
であるらしく

an ayne
アンアイネ
あげくに

ene itak i
エネイタキ
このように言った。

kamuy rametok
カムイラメトク
「まことの勇者よ

itak=an ciki
イタカンチキ
私が話しますので

pirka nu wa
ピリカヌワ
よく聞いて

i=korporare ya
イコロパレヤ
てください…



単語

アイヌ語	品詞	日本語
eóripak	エオリパッ	他動詞 ~を尊敬する
hétce	ヘツチェ	名詞 yukar が演じられる際、聞き手が入れる囃し
kásma	カシマ	副詞 ~よりも
kímuy	キムイ	名詞 合成語の要素として「頭」を表す
korkayki	コロカイキ	接続助詞 ~ (する、である) けれど ※通常korka が用いられるが、音節を整えるために稀に現れる
kórpáre	コロパレ	他動詞 ※i=korporare ya(n) などの形で、~してください
kotóm	コトム	接続助詞 (推定を表し) ~らしく
numáci	ヌマチ	名詞 女性の肌着の胸元を締める紐 ※概念形は numát ヌマツ
nupúr	ヌプル	自動詞 濃い、霊力が強い
ramétok	ラメトク	名詞 勇者、勇氣
répni	レプニ	名詞 yukar が演じられる際、拍子をとる木の棒
sikéranáatte	シケラナアツテ	他動詞 ~に眼を伏せる
sinót	シノツ	自動詞 遊ぶ
sirikoraye	シリコライエ	他動詞 ~を本当に高くずり上げる
só	ソ	名詞 名詞 + so + ne の形で範疇を示す。このsoは和訳できない。
tusúno	トスノ	名詞 巫術の力の強い者



今日の学習

1. 韻文と音節について

これまで私が yukar を語っているときに、句の最初が u で始まっている箇所が何か所かあることにお気づきでしょうか。和歌や俳句や詩を読む際に、5音節か7音節に整えることが好まれますね。yukar や oyna などでも同じように5音節前後で句の音節を整えることが好まれます。この時に音節数が足りない場合、u や稀に ip が用いられます。音節数を整えるための u や ip などは虚辞と呼ばれます。虚辞自体に意味はありません。ただし、u は他動詞や位置名詞などの頭にくっついて「互いを、互いに」という意味を持たせる u と間違えないように注意が必要です。

この他にも、「i=nukar ki kor 私を見ると」のように、動詞の後に代動詞 ki を入れて音節数を整える方法もあります。「私を見ると」と言いたいのであれば、「i=nukar kor」だけ事足りるのですが、音節数を整えるために、ki を足しているのです。この ki は場合により、kiki のように重ねられることもあります。

2. hetce

もうひとつ、何かを叩きつけるような音にもお気づきでしょうか。これは、repni という木の棒で、拍子をとっている音です。yukar が演じられる際には、語り手だけではなく、聞き手も repni を持って、一緒に拍子をとります。そして、聞き手は場を盛り上げたり、ここぞという時に、「ヘッ」とか「ヘイ」などの囃しを入れます。この囃しを hetce といいます。

3. itak=an ciki pirka nu wa i=korporare ya(n)

「itak=an ciki pirka nu wa i=korporare ya(n)」は、「私が話すから、よく聞いてください」といった意味になります。語り手よりも目上の者・神などが語り手に向かって話す時に用いられる表現です。さて、kampinuye33で、ciki は「~(し)たら、~(する)なら」という意味で、命令文を導く場合に用いるということを学びました。また、勧誘の文とともに用いることもできます。この他に、「haw ne ciki…」と相手の言ったことを受けて、「それならば…」というときの表現にも用いることができます。

4. この後の展開

実はこれからがこの yukar の大変盛り上がる場所です。この yukar の続きが気になる方は、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構のホームページから「アイヌのお話アニメ オルシバスウォブ 平成24年度」のページをご覧ください。今回ご紹介した yukar を視聴することができます。

(<http://www.frpac.or.jp/animation/details/h24.html>)

「ルロアイカムイ」と入力すれば、You Tubeでも視聴可能です。



単語

アイヌ語		品詞	日本語
isápakikni	イサパキクニ	名詞	魚の頭叩き棒
kamúycep	カムイチェブ	名詞	サケの美称。 ※普通は cep だけでサケを指す。 sípe シベ もサケを指す言葉。
marék	マレク	名詞	魚をとるための鉤鉾



今日の学習

今日は、普段行っている研修活動で特に印象に残っている活動を紹介したいと思います。

1. 伝統的生活空間再生事業「伝承者(担い手)育成事業」とは？

「伝承者(担い手)育成事業」とは、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構の伝統的生活空間(イオル)再生事業の一環として実施されている事業です。通称的に「担い手」育成事業などとも呼ばれます。アイヌ文化を根底から支える総合的な人材の育成や活動の推進を図ることが目的とされています。言葉・衣食住・工芸・芸能・信仰・儀礼・教材開発などアイヌ文化に関する様々な分野の研修が実施されています。2008年度から、白老町にある一般財団法人アイヌ民族博物館にて実施されています。研修期間は3年間です。2014度からは第3期が開始され、私は第3期生に当たります。

2. marek作製、marekを使った漁

テキストvol.3の「講師のプロフィール」にある私の写真をご覧くださいでしょうか。私が両手に持っている道具は marek と呼ばれるものです。この marek の先にぶら下がっているものは、kamuycep です。

marek とは魚(サケやマスなど)を突いてとる道具です。作りとしては、写真1のように、鉤鉾を紐で結びつけた棒に、さらに長い柄を繋いでできています。鉤鉾の先と棒の先が同じ向きになるように紐で取りつけます。さらに、この鉤鉾のついた棒を柄に取りつけて完成です。今回の研修では、紐をツルウメモドキ、棒をノリウツギ、柄をアオダモで作りました。旭川では、紐をエゾイラクサ、棒をイタヤカエデ、柄をヤナギで作るといふ先達の証言もあります。

marek は、魚が見える川の浅いところで使います。完成した marek を用いて、研修ではサケをとりに行きました。サケを見つけたら、鉤鉾の部分で魚を突きます。写真5のように、鉤が魚に刺さると鉤が溝から外れて紐でぶら下がります。魚が暴れても外れません。魚をとったら、写真6のように、ミズキやヤナギで作る40~50センチくらいの isapakikni などと呼ばれる棒で魚の頭を叩きます。最後に、用途に合わせ適宜処理をします。なお、「伝承者(担い手)育成事業」におけるサケ漁は、北海道より特別採捕許可を得て行っています。

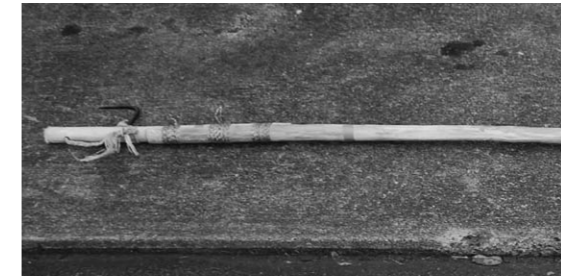


写真1：marek



写真2：ノリウツギ採取

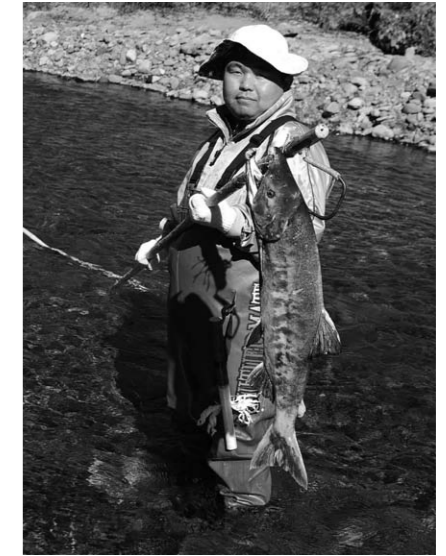


写真5：自分で作った marek でサケをとりました!



写真3：鉤鉾が入る溝を掘っているところ



写真6：isapakikni でサケの頭を叩く



写真4：鉤鉾に紐を結びつけているところ



写真7：サケをとったのち、適宜処理

メモ



例文

A : Kim ta nisapno an=erameskari kur an=koekari yakun nekon a=ye yak pirka?
キムタニサッノアネラメシカリクランコエカリヤクン ネコンアイエヤク ピリカ?
 山で突然知らない人に出会ったら、なんて言ったらいいの?

B : Kuani anakne nep ka ku=ye ka somo ki no ku=kira nankor na.
クアニアナツネ ネツカクイエカソモキノ クキラナンコンナ。
 私なら何も言わないで逃げるだろうよ。

A : Paw! E=eraman korka e=erampetek pokon e=an ! Pirkano en=epakasnu ya!
パウ！エエラマンコロカ エエランペテツポコンエアン！ ピリカノエネパカシヌヤ！
 もう！知っているのに知らないふりをしてる！ちゃんとそれについて私に教えてよ！
 “Irankarapte” ?
“イランカラapte” ?
 “イランカラapte” ? (って言ったらいいの?)

B : Pirka itak e=eraman hawe! Aynupuri pirkano an=eraman wa
ピリカイタクエエラマンアウエ！ アイヌプリピリカノアネラマヌワ
 いやあ、いい言葉知っているなあ！アイヌ文化をよく知って
 irammakaka ierankarap=an easkay yakne pirka korka somo ne yakanakne
イラムマカカイエランカラアアンエシカイヤツネ ピリカコロカ ソモネヤカナツネ
 しっかり挨拶できたらいいけれど、そうでなければ
 somoyaykatanu=an kusu iruska kur an nankor .
ソモヤイカタヌアックス イルシカクランナンコロ。
 無礼だと腹を立てる人かいるだろう。

Korka kim ta nisapno an=erameskari kur an=koekari yakun nen ne yakka
 an=oyamokte p ne na.

**コロカ キムタニサッノアネラメシカリクランコエカリヤクンネンネヤツカ
 アノヤモクテツネナ。**

でも、山の中で突然見知らぬ人に出会ったら、誰であっても、
 不審に思うものだよ。

Anokay anakne nep ka kamiasi an=ne ru ka somo ne

アノカイアナツネネツカカミアシアンネルカソモネ

私は何か化け物ではありません

sekor an pe oyna otta usa yukar otta usa tuytak otta usa a=ye.

セコロアンベオイナオツタウサユカヲオツタウサト°イタクオツタウサアイエ。

ということが神謡でも英雄詞曲でも散文説話でも言われる。



単語

アイヌ語	品詞	日本語
áynupuri	アイヌプリ	名詞 アイヌ文化
epákasnu	エバカシヌ	他動詞 (人) に～について教える
eráman	エラマン	他動詞 【知識として】～を知っている
erámeskari	エラメシカリ	他動詞 【経験がなくして】～を知らない、【人や物】に覚えがない ※対義語は、ámkir アムキリ 他動詞 【経験して】～を知っている、【人や物】を見知っている
erámpetek	エランペテツ	他動詞 【知識として】～を知らない
irámmakaka	イラムマカカ	副詞 しっかり、丁寧に ※ある行為や状態が感情的に良いことを表し、文脈によりさまざまに訳される。
iwór	イウォロ	場所名詞 →今日の学習を見よ
koékari	コエカリ	他動詞 ～と出会う
nisápnó	ニサッノ	副詞 突然、急に
oyámokte	オヤモクテ	他動詞 ～を不審に思う
pokón	ポコン	接続助詞 (比況をあらわし) ～(する) ように、 (動詞句+ pokon + anの形で) ～(している) ふりをしている
somóyaykatanu	ソモヤイカタヌ	自動詞 無礼である
sukup	スクブ	自動詞 育つ
usa	ウサ	副助詞 ～も ※usa…usa…で、…も…も
yakanakne	ヤカナツネ	接続助詞 →今日の学習を見よ



今日の学習

1. 引用するときの表現 **sekor**と **yak**

先に学んだように、sekor は先行する文全体を受けて、「～と」と誰かの発話や思考などを直接的に引用する後置副詞です。「sekor an pe oyna otta usa yukar otta usa tuytak otta usa a=ye」は、神謡や英雄詩曲や散文説話などで、「anokay anakne nep ka kamiasi an=ne ru ka somo ne.」とされている内容を直接引用しています。石狩方言では、全体的に sekor が用いられるほか、空位置方言では ari が用いられることがあります。

これに対して、誰かの発話などを間接的に引用する場合には、接続助詞 yak を用い、その後に ye「～を言う」という他動詞を用います。ye は、一人称・二人称・三人称いずれかの人称をくっつけて用いられます。その他、「特定しない誰か」の意味の an= をくっつけて、

「anutari iposse ani 冬 anakne nekon a=ye yak pirka? アイヌ語で、冬はどう言ったらよいのか?」

「mata. mata yak a=ye. マタ。マタって言う」

のように、一般的に誰もが口にする事柄や噂話などを伝えるときに用いることができます。

2. 仮定の表現「**yak**、**yakne**、**yakanakne**」と「**yakun**」と「**ciki**」

「yak、yakne、yakanakne」は、どれも「～したら」という意味の接続助詞です。これらの語に続く文は、例文にもある通り「nekon a=ye yak pirka」「ierankarap=an easkay yakne pirka」というように「良い」「悪い」などの価値判断を含む文が来ます。「somo ne yakanakne」は後に続く文が「somoyaykatanu=an kusu iruska kur an nankor.」ですが、文脈を考えれば「悪いことが起こる」という意味が含まれると考えられます。

「yakun」も「～したら」という意味ですが、「an=erameskari kur an=koekari yakun」のように、一般的な仮定、条件の提示を行う際に用いられます。価値判断は含まれません。

「ciki」については、kampinuye48で学んだように、命令や勧誘の文を導く場合に用います。

3. iwor、自己紹介

日本語の「こんにちは」あたる挨拶として、irankarapte という良い言葉が現在では用いられています。本来は成人男性が使う言葉で、irankarapte の後にいろいろな言葉が続くものだという事は、kampinuye1 で述べたとおりです。例文中にあるように、山などで突然人に出くわしたときには、「anokay anakne nep ka kamiasi an=ne ru ka somo ne. 私は何か化け物ではありません」と言うことが神謡でも英雄詞曲でも散文説話でも述べられています。山を生活の糧を得る場の一つとしていたアイヌからすると、突然見知らぬ人と出くわした場合は、相手を不審に思うのも仕方ないことです。そもそも、ある地域の集団、一族などが生活の糧を得る領域は定められており、他人の領域を無断で犯せば紛争のもとになりました。狩ろうとしていた獲物が、他人の領域に逃げることもあったでしょうが、他人の領域に入る際には許可をとったということが英雄詩曲の一説にもあるほど、この領域ははっきり意識されていたようです。この領域のことを iwor と言います。祈りの言葉や物語では、「獵場、山奥」くらいに訳されます。

ところで現在でもそうですが、初めて人に会った場合は自己紹介をすることが多いと思います。とはいえ、大事な個人情報はいきなりは明かさないうまい。アイヌは、名前・出身などの氏素性をいきなりは明かさないうまいものだったと言います。こうした氏素性は大事な個人情報でした。氏素性を明かすということ言えば、杉村キナラブック壺伝承の神謡に、「国造りの神の妻が病気になったのは、沼の神が原因だ」として、原因であるその沼の神の氏素性を次々と解き明かし、沼の神を脅して妻の病気を治そうとする物語があります。相手(沼の神)の正体が不明では対策のしようもないのですが、原因や相手のことを分かりさえすれば、対策の立てようはあります。だから、対策をとられる前に沼の神も逃げ出し病気も治る、というわけです。氏素性についての考え方がうかがえる物語ではないでしょうか。

さて、昔の慣習を尊ぶことは絶対に必要ですが、そうは言っても、現在はそれだけでは生きてはいけなことも多いですし、昔の慣習をふまえて現在に合った形を作ることも時には必要でしょう。

疑問詞のまとめ



例文

1. A : 滝川 ene hēmpar e=oman ya ?
タキカワエネ ヘンパラエオマンヤ?
 滝川へはいつ行くの?
 B : Oyasim ku=oman wa Ota nispa otta ku=rewwsi kusu ne.
オヤシムクオマヌワ オオタニシパオッタ クレウシクスネ。
 明後日行って、太田さんのところに泊まるつもりだよ。
 A : Hēmpak to e=rewwsi? Hēmpakiw e=tura oman?
ヘンパットエレウシ? ヘンパキウエト^ラオマン?
 何日泊まるの? 何人あなたと一緒に行くの?
 B : Tuto reto siran kor ku=hosipi nankor. Kuani patek sinenne ku=oman wa.
ト^レトシランコロ クホシビナンコロ。クアニパテク シネンネクオマヌワ。
 2,3日したら帰るだろう。私だけ一人で行くよ。
 A : Nepkusu e=oman?
ネックスエオマン?
 なぜ行くの?
 B : En=erusa kampsos ku=hosipire kusu ku=oman.
 Okake ta usa okay pe ku=eyaypakasnu kusu ne .
エネルサカンピソックホシピレクス クオマン。
オカケタ ウサオカイペクエヤイパカシヌクスネ。
 彼が私に貸してくれた本を返すために行くんだ。
 その後、いろいろなことを学ぶつもり。
-
2. A : Totekno es=okay ruwe?
ト^テクノエソカイルウェ?
 お元気ですか?
 O : Pirka.
ピリカ。
 いいよ。
 A : es=en=erusa kampsos ku=hosipire kusu ku=ek.
 Okake ta usa okay pe an=eyaypakasnu rok.
エセネルサカンピソックホシピレクス クエク。
オカケタ ウサオカイペアネヤイパカシヌロク。
 あなたが私に貸してくれた本を返すために、来ました。
 その後いろいろなことを学びましょう。
 O : Hēmpakpe e=erusa=an ruwe?
ヘンパクペエエルサアンルウェ?
 何冊、私は君に貸したっけ?
 A : Iwanpe. Iyayraykere.
イワンペ。イヤイライケレ。
 6冊です。ありがとうございました。
 O : Yakun sinritkarpuri an=eyaypakasnu rok.
ヤクン シンリツカ^ラプリアネヤイパカシヌロク。
 じゃあ、昔からのならわしを学ぼう。



単語

アイヌ語	品詞	日本語
erúsa	エルサ	他動詞 (そのまま返せるもの) を (人) に貸す
eyáypakasnu	エヤイパカシヌ	他動詞 ~を学ぶ
hēmpak	ヘンパク	連体詞: 疑問詞 いくつの~
hēmpakiw	ヘンパキウ	代名詞: 疑問詞 何人
hēmpakpe	ヘンパクペ	代名詞: 疑問詞 いくつ、何個、など
hēmpar	ヘンバラ	副詞: 疑問詞 いつ ※人によっては、hēmpara ヘンバラ
kámpisos	カンピソシ	名詞 本
oyásim	オヤシム	名詞、副詞 あさって
réwsi	レウシ	自動詞 泊まる
sinritkarpuri	シンリツカ ^ラ プリ	名詞 祖先からの習慣、昔からのならわし



今日の学習

1. 疑問詞のまとめ

- hēmpar は「いつ」を意味して用いられます。人によっては、hēmpara の形も用いられるようです。
- hēmpak は「いくつの~」という意味で、名詞とともに用いられます。hēmpak の語尾に、-iw をくっつけば「何人」という意味になります。また、hēmpak の語尾に、-pe をくっつけば「いくつ、何個」などの意味になります。
- nepkusu は、「何」を意味する nep と、「~だから、~のために」といった原因・目的を意味する kusu が結びついたものです。「なぜ、何のために」を意味します。

今までの kampinuye において様々な疑問詞が出てきましたので、整理してみましょう。

nen, nenehe : 「誰」⇒詳しくは kampinuye9 参照。

nep, nepe : 「何」⇒詳しくは kampinuye9 参照。

nekon : 「どう、どのように」⇒例文は kampinuye21 参照。

nekonan : 「どのような」⇒例文は kampinuye21 参照。

neyta : 「どこに」⇒例文は kampinuye24 参照。

neyne : 「どこへ」⇒例文は kampinuye25 参照。

neywa : 「どこから」⇒例文は kampinuye25 参照。

neyta、neyne、neywa のそれぞれから、ta「~に」、ne「~へ」、wa「~から」という後置副詞を外すと、ney という部分が共通しています。ney は「どこ」の意味ですが、「どこが」の意味で主語になる場合や「どこを」などの意味で他動詞の目的語になる場合は、kampinuye21の例文のように neor を用います。

2. 時制を表す言葉

kampinuye6で学んだように、アイヌ語の動詞は、過去、現在、未来で形を変えることはありません。例文の oyasim「あさって」のような言葉や文脈で判断されます。今まで出てきた語も含めて、日・月・年について、いくつかの例を紹介します。

①日について

アイヌ語	品詞	日本語
hōskiannuman	ホシキアンヌマン	名詞、副詞 おととい
nisátta	ニサッタ	名詞、副詞 明日
núman	ヌマン	名詞、副詞 昨日
oyásim	オヤシム	名詞、副詞 あさって
tánto	タント	名詞、副詞 今日

②月について

アイヌ語	品詞	日本語
asínnoekcup	アシノエクチュブ	名詞、副詞 来月
hōskiancup	ホシキアンチュブ	名詞、副詞 先月
táncup	タンチュブ	名詞、副詞 今月

③年について

アイヌ語	品詞	日本語
hōskiampa	ホシキアンパ	場所名詞、副詞 去年
oyápa	オヤパ	場所名詞、副詞 来年
támpa	タンパ	場所名詞、副詞 今年



今日の学習

アイヌ語の動詞は複雑な構造を持つものがあります。アイヌ語の学習を進めていき、物語などを読んでいくと、こうした動詞に出会うことが多いと思います。ひとつの動詞であっても、その言葉の中の要素を分解して考えられるものと、分解して考えられないものがあります。分解して考えられるものは、基本となる動詞にいろいろな要素がくっついて、造語されています。こうした要素は、それ単独では使われず、動詞にくっついて意味を変えたり、意味を広げたりしています。次に述べるような要素を知っておくと、アイヌ語を自分の力で読み進める際に役立つことでしょう。また、自分で新しい動詞を作る際にも役立つのではないのでしょうか。

※【自】は自動詞、【他】は他動詞を示します。

1. 「he-、ho-」と「e-、o-」

he- は「頭・顔」、ho- は「尻・性器」などの意味で、動詞の頭にくっつき、その動詞がとりうる目的語の数を1つ減らします。

- ① tuku (～を突きだす) 【他】→ he-tuku (頭- ～を突きだす) ⇒ hetuku 「(太陽が) 昇る」【自】
 ② puni (～を持ち上げる) 【他】→ ho-puni (尻- ～を持ち上げる) ⇒ hopuni 「立ち上がる」【自】
 それに対して、似たような形ですが、e- は「～の頭・顔」、o- は「～の尻・性器」などの意味で動詞の頭にくっつき、その動詞がとりうる目的語の数を減らしません。
 ① tuk (出る) 【自】→ e-tuk (～の頭- 出る) ⇒ etuk 「(植物が) 生える」【自】
 ② poso (～を通り抜ける) 【他】→ o-poso (～の尻- ～を通り抜ける) ⇒ oposo 「～を潜り抜ける」【他】
 he-、ho- と e-、o- には意味の違いがあるのですが、子音 h が抜け落ちてしまいがちな石狩方言では、hetuku を etuku、hopuni を opuni のように発音されることがあるため、両者の違いが分かりにくいことも多いのです。

2. 「i-」について

i- は、動詞の頭にくっつき、その動詞がとりうる目的語の数を1つ減らします。i- 自体の意味は様々です。

- ① rayke (～を殺す) 【他】→ i-rayke (人- ～を殺す) ⇒ irayke 「人殺しをする」【自】
 この i- は、「特定しない人一般」を意味します。人称接辞 an の目的格に由来します。この意味では、「un-nospa (人- ～を追う) ⇒ unnospa (人を追いかける)」の様に、un も用いられます。
 ② ku (～を飲む) 【他】→ i-ku (あれ- ～を飲む) ⇒ iku 「酒を飲む」【自】
 この i- は、慣用されている言い方で互いに了解できる何かを指して「あれ」の意味で用いられます。
 ③ hok (～を買う) 【他】→ i-hok (もの- ～を買う) ⇒ ihok 「買い物をする」【自】
 ④ ramu (～を思う) 【他】→ i-ramu (物事- ～を思う) ⇒ iramu 「考える」【自】
 この i- は、「漠然とした物、事」を意味します。

3. 「yay-、si-」と「u-」について

yay- と si- は動詞の頭にくっつき、採りうる目的語の数を1つ減らします。

- ① wente (～を駄目にする) 【他】→ yay-wente (自分- ～を駄目にする) ⇒ yaywente 「自滅する」【自】
 ② wente (～を駄目にする) 【他】→ si-wente (自分- ～を駄目にする) ⇒ siwente 「生まれつき足が遅い」【自】

yay- も si- も日本語にすると同じ「自分」ですが、その意味するところは違います。佐藤知己氏によれば、yay- は自分が手を下して直接的に自分にある動作を行うこと、si- は自分以外の誰かの手により間接的に自分にある動作を行わせること、を意味するとしています(※)。①は自分の行いによって自滅したり落ちぶれたりすることを意味し、②は自分の行いによらず足が遅いというわけです。

- ③ osura (～を捨てる) 【他】→ u-osura (互い- ～を捨てる) ⇒ uosura 「離婚する」【自】
 u- は、動詞の頭にくっつき、採りうる目的語の数を1つ減らします。「互い」の意味で用いられます。
 ※佐藤知己『アイヌ語文法の基礎』大学書林、2008年

4. 「e-」「o-」「ko-」について

「e-」「o-」「ko-」は、動詞の頭にくっつき、その動詞がとりうる目的語の数を1つ増やします。意味は次の通りです。

- ①「e-」
 1) 目的:～について、～を、～のために
 kiroroan (嬉しいと思う) 【自】→ e-kiroroan (～を- 嬉しいと思う) ⇒ e-kiroroan (～を嬉しいと思う) 【他】
 2) 理由・原因、手段:～によって、～をもって
 rekor (名を持つ) 【自】→ e-rekor (～で- 名を持つ) ⇒ erekor (～で名がつく) 【他】〈理由・原因〉
 sinot (遊ぶ) 【自】→ e-sinot (～をもって- 遊ぶ) ⇒ esinot (～をもって遊ぶ) 【他】〈手段〉
 3) 同伴:～と一緒に、～と
 tusmak (競争する) 【自】→ e-tusmak (～と- 競争する) ⇒ etusmak (～と競争する) 【他】
 4) 運動の方向、到着点、位置関係:～へ、～に、～で
 oman (行く) 【自】→ e-oman (～へ- 行く) ⇒ eoman (～へ行く) 【他】〈方向〉
 an (いる・ある) 【自】→ e-an (～に- いる・ある) ⇒ ean (～にいる・ある) 【他】〈位置〉

②「o-」

- 1) 手段:～をもって ※稀にしか現れない
 ipere (～に食事をさせる) 【他 目的語1つ】→ o-ipere (～をもって- ～に食事をさせる) ⇒ o-ipere (～をもって～に食事をさせる) 【他 目的語2つ】
 2) 運動の起点:～から
 ek (来る) 【自】→ o-ek (～から- 来る) ⇒ oek (～から来る) 【他】
 3) 運動の方向、到着点、位置関係:～へ、～に、～で
 oman (行く) 【自】→ o-oman (～へ- 行く) ⇒ ooman (～へ行く) 【他】〈方向〉
 sinot (遊ぶ) 【自】→ o-sinot (～で- 遊ぶ) ⇒ osinot (～で遊ぶ) 【他】〈位置〉

③「ko-」

- 1) 目的:～に対し、～に、～を、～から
 iruska (怒る) 【自】→ ko-iruska (～に対し- 怒る) ⇒ koiruska (～を怒る) 【他】
 ikka (盗む) 【自】→ ko-ikka (～に対し- 盗む) ⇒ koikka (～から盗む) 【他】
 2) 手段:～をもって ※稀にしか現れない
 ranke (～を落とす) 【他 目的語1つ】→ ko-ranke (～をもって- ～を落とす) ⇒ koranke (～をもって～を落とす) 【他 目的語2つ】
 3) 同伴:～と一緒に、～と
 hotke (横になる) 【自】→ ko-hotke (～と一緒に- 横になる) ⇒ kohotke (～と一緒に寝る) 【他】
 4) 運動の方向、到着点:～へ
 kira (逃げる) 【自】→ ko-kira (～へ- 逃げる) ⇒ kokira (～へ逃げる) 【他】〈方向〉

太田満氏は「e-」「o-」「ko-」について、既存の語からの派生を除き、新語を作る場合にだけその用法を、

- ①については1)、3)、4)のうち位置関係
 ②については1)と原因、手段、2)
 ③については1)、3)、4)
 に限定し、意味を明瞭にすることを提唱しています。

メモ

アイヌ語ラジオ講座収録テープ及びミニディスク(MD)の貸出しについて

1. 利用時間

(公財)アイヌ文化振興・研究推進機構:午前9時～午後5時(月～金)
アイヌ文化交流センター:午前10時～午後6時

2. 休業日

(公財)アイヌ文化振興・研究推進機構:土・日曜日、祝日、年末・年始(12月29日～1月3日)
アイヌ文化交流センター:月・日曜日、祝日の翌日、年末・年始(12月29日～1月3日)

3. 申込手続から受取

裏面の申込用紙を当公益財団またはアイヌ文化交流センター事務局に提出いただき、手続きが完了しましたら、収録テープ等をお送りします。

また、送料は利用者負担としておりますので、送料分の切手を同封いただくか、または料金着払いにてお送りします。なお、切手を同封される場合には料金を下記までお問い合わせください。

4. 期 間

申込みの日から14日以内に返却してください。

5. お問合せ先

(公財)アイヌ文化振興・研究推進機構
〒060-0001
北海道札幌市中央区北1条西7丁目
プレスト1・7(5階)
TEL.(011)271-4171 FAX.(011)271-4181
e-mail: ainu@frpac.or.jp

アイヌ文化交流センター
〒104-0028
東京都中央区八重洲2丁目4号13番
ユニソ八重洲2丁目ビル(3階)
TEL.(03)3245-9831 FAX.(03)3510-2155
e-mail: acc-tokyo@frpac.or.jp

アイヌ語ラジオ講座収録テープ・ミニディスク(MD)の貸出申込用紙

*申込番号					申込日	平成	年	月	日					
*返却期日	平成	年	月	日	*返却日	平成	年	月	日					
住所	〒				氏名									
年齢	才	性別	男・女	職業										
連絡先	電話:		FAX:											
	電子メール:													
希望教室	平成10年度	札幌	千歳	平取	旭川	種類	・カセットテープ ・ミニディスク(MD) ・コンパクトディスク(CD) ○で囲んでください。							
	平成11年度	白老	釧路	登別	静内									
	平成12年度	白糠	浦河	鶴川	帯広									
	平成13年度	白老①	白老②	登別①	登別②									
	平成14年度	白糠①	白糠②	鶴川①	鶴川②									
	平成15年度	平取①	平取②	平取③	平取④									
	平成16年度	旭川①	旭川②	旭川③	旭川④									
	平成17年度	静内①	静内②	静内③	静内④									
	平成18年度	様似①	様似②	様似③	様似④									
	平成19年度	平取①	平取②	平取③	平取④									
	平成20年度	旭川①	旭川②	旭川③	旭川④									
	平成21年度	静内①	静内②	静内③	静内④									
	平成22年度	白老①	白老②	白老③	白老④									
	平成23年度	旭川①	旭川②	旭川③	旭川④									
	平成24年度	鶴川①	鶴川②	鶴川③	鶴川④									
	平成25年度	浦河①	浦河②	浦河③	浦河④									
	平成26年度	平取①	平取②	平取③	平取④									
	平成27年度	石狩①	石狩②	石狩③										
	希望教室を○で囲んでください。													
	特記事項													

注1 *印の箇所は記入しないでください。 注2 団体による申込みの場合には、代表者の氏名、住所等を記入してください。

リスナーのみなさまへ

「アイヌ語ラジオ講座」をお聴きいただきありがとうございます。

この講座は、初心者向けのアイヌ語やアイヌ文化講座として放送しています。この講座の必要性やあり方などを検討するにあたり、みなさまのご意見、ご感想などをお聞きするものです。下記の質問について、該当の番号を○で囲み、その他のご意見などをご記入の上、お送りください。

(キトリ)

※キトリ線を切り取って、封筒にして郵送ください。
※封筒を作る際はのりしろをセロハンテープ等でしっかりと貼り合わせてください。

(キトリ)

のりしろ

(キトリ)

アイヌ語ラジオ講座アンケート (年齢 才 男・女)

I この講座についてお尋ねします。

問1 この講座をなにで知りましたか。
①ラジオ ②新聞 ③ホームページ ④ポスター・チラシ ⑤アイヌ語教室 ⑥その他()

問2 この講座を何回くらい聴いていますか。
①月に1回 ②月に2～3回 ③毎週 ④その他()

問3 この講座をいつ・どのような方法で聴いていますか。
①日曜日の本放送 ②土曜日の再放送 ③放送を録音して ④ホームページ ⑤貸出しテープ・MD

問4 この講座の放送時間(15分間)について、どう思われますか。
①もっと短く(分位) ②このままで良い ③もっと長く(分位)

問5 この講座の内容について、どう思われますか。
ア)「アイヌ語の例文紹介」について
①わかりやすい ②普通 ③わかりにくい()
イ)「アイヌ語の解説」について
①わかりやすい ②普通 ③わかりにくい()
ウ)「アイヌ文化の紹介」について
①わかりやすい ②普通 ③わかりにくい()

問6 テキストの内容について、どう思われますか。
①もっと易しく ②このままで良い ③もっと詳しく()

II これからの講座のあり方についてお尋ねします。

問7 この講座をラジオで放送することについて、どう思われますか。
①続けてほしい ②どちらとも言えない ③やめても良い

問8 現在の内容のほか、どのような話を聞きたいですか。
①アイヌ語を学びきっかけなどの体験談 ②アイヌ文化に関わる体験談 ③地域のアイヌ語・文化に関わる活動の紹介
④その他()

問9 「アイヌ文化の紹介」で取りあげてほしいテーマはありますか。
①ある a地名 b歴史 c歌・踊り d口承文芸 e儀礼 f工芸 gその他() ②ない

III その他のご意見があればお聞かせください。

のりしろ

(キトリ)

※キリトリ線を切り取って、封筒にしてお送りください。
※封筒を作る際はのりしろをセロハンテープ等でしっかりと貼り合わせ
てください。

(キリトリ)

(キリトリ)

料金受取人払郵便

札幌中央局
承認
340

差出有効期限
平成28年3月
31日まで
●切手不要

0608788

札幌市中央区北一条西七丁目プレスト1・7 5階

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

アイヌ語ラジオ講座担当者 行



(キリトリ)

キ
リ
ト
リ
線



会員募集のお知らせ

『賛助会員』を募集しています。

国及び北海道からの財政的な支援をいただいておりますが、法律の趣旨を踏まえ多様な事業を展開していくために運営基盤の確立が重要であります。

このため、地元北海道はもとより、全国の個人、団体や企業の方々から、幅広くご支援をいただくことが大切であると考えております。

つきましては、このような趣旨をご理解の上、賛助会員としてご入会くださいますようお願い申し上げます。

年会費

- 法人・団体／一口2万円
 - 個人／一口5千円
- ※各一口以上です。

賛助会費の用途

皆様からの会費は、アイヌ文化に関する書籍、写真、ビデオ等のライブラリーの整備など当公益財団の自主事業の充実のためにあてられます。

会員の特典

- 会員の皆様には、次のような特典があります。
- ・当公益財団が発行する刊行物等の無料配布

●寄付金税額控除について

当公益財団は、平成25年12月に国から「税額控除に係る証明書」の交付を受けておりますので、所得税を納付している場合、確定申告に必要書類を添付することで、所得税や住民税から一定額が控除されます。

平成27年度「アイヌ語ラジオ講座」テキスト Vol.4

発行年月 平成28年1月
編集・発行 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構